

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年2月号

森のおくりもの2

NO.389 The Gift from Woods



雪が音を吸収する静かな世界、雪上には動物たちの「足跡」が残され、姿は見えなくても、その存在がより身近に感じられます。道を横切るウサギの足跡や木から飛び降りたリスの足跡など、雪のあるガイドウォークではそんな足跡の解説も聞きながら散策できる、雪ならではの貴重な体験ができます。春はすぐそこ、雪が積もったら一度は観察の森にも足をお運びください。自分でつけた足跡もなかなか爽快ですよ。 【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『寝る子は育つ』

この冬は、寒波が来て寒い日はあるものの暖かい日が多く、暖冬傾向だという天気予報通りで、雪が降るのが珍しいほどです。俳句で冬の季語に「山眠る」があります。冬の山の静まり返った情景を眠るという言葉で表現されています。確かに雪が積もると静寂を感じます。雪には吸音効果があるので、雰囲気から静かな気がするだけでなく、科学的な理由からも実際に静かなのです。

冬に眠るといえば冬眠です。今シーズンは冬眠しないクマもいるのではと懸念されていましたが、やはり1月になっても目撃情報が報告されました。暖かいから冬眠しないと思いがちですが、背景には今のクマ問題があって、単純に暖冬だからということではないようです。クマにとって冬眠は、気温が低から寝て過ごすわけではなく、巨体を維持できる食べものが得られなくなるからで、生き延びる上で重要です。更に雌は冬眠中に出産して子育てをする仕組みがあり、種を存続するために進化して獲得した習性です。今後もクマが冬眠に入れない状況が続けば、種の絶滅につながるのではと心配に思います。

クマの場合は「寝ると子が育つ」ですが、『寝る子は育つ』ということわざがあります。「よく寝る子は健康に育つ」という意味です。江戸時代までのことわざ集には収録されていませんが、古くから言い伝えられてきて、明治時代以降正式にことわざとして記録されたようです。これは単なる迷信ではなく、深い睡眠時に成長ホルモンが最もよく分泌されるので、医学的に正しいことです。まだ解明されていないこともあります。抵抗力や美容、記憶や感情などにも寄与して、睡眠は子どもだけでなく大人にも大切です。科学が発達していなかった昔に、広まっていたなんて不思議です。

今、受験シーズンですが、以前は“四当五落”と信じられて睡眠時間を削り勉強したものです。これこそ迷信で、きちんと睡眠をとった方が健康にも脳にもいいし、眠気を我慢して無理するよりも、効率が上がることがわかっています。寝ることは大切なのですね。

【レンジャー：新田隆一】



観察の森で見られる冬芽と葉痕②

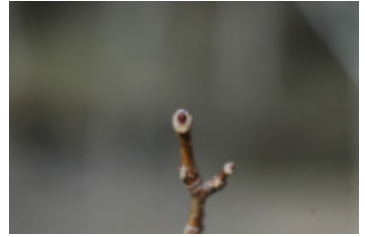
落葉樹は晩秋に葉を落とし休眠状態で冬を過ごします。春にふたたび芽吹き活動を開始するために準備されたものを冬芽といいます。また葉の落ちた跡を葉痕といい、種類によって様々な形をしているので形をおぼえておくとなまえを知ることが出来ます。観察センターの研修室に冬芽と葉痕の写真を展示しているので是非ご覧ください。先月に引き続きその一部を紹介します。 【レンジャー：齋 正宏】



アジサイ(アジサイ科)



オニグルミ(クルミ科)



キハダ(ミカン科)



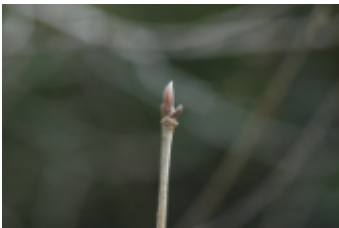
キブシ(キブシ科)



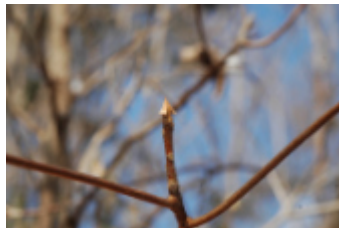
ホオノキ(モクレン科)



マルバアオダモ(モクセイ科)



ヤブデマリ(ガマズミ科)



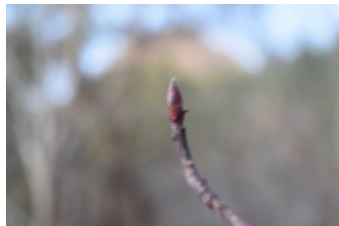
リョウブ(リョウブ科)



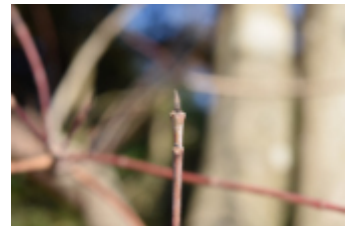
メグスリノキ(ムクロジ科)



クサギ(シソ科)



ミズキ(ミズキ科)



クマノミズキ(ミズキ科)

森の「あれこれ」



「レストラン満員御礼」



2月に入り「野鳥のレストラン」はにぎやかです。12月から翌年の3月末まで室内から野鳥を脅かさずに姿を楽しめます。

よく見られるのはヤマガラ、シジュウカラ(左の写真1枚目と2枚目)、スズメ、ヒヨドリなど。エサ台の後ろの藪にはアオジやカシラダカが探せます。双眼鏡があると便利です。身分証提示で無料貸出もしています。コツは気長に観察すること。5分10分でやめるのはもったいないです。今回は1時間半粘りましたが左の撮影も含め9種の野鳥が来店でした。半日粘ってタヌキを観察した方もいらっしゃると思います(^)/。

今シーズン特に目につくのがカケスです(3枚目と4枚目)。体長33cm、カラスの仲間ですが黒いのは体の一部だけです。なんといっても翼の一部のブルーと黒と白のシマシマ模様がチャームポイント。いつもは針葉樹などの中にいてなかなか姿が見えない印象の鳥ですが今年の冬は県内の各地でいつもより多く目撃情報が聞かれます。

カラスの仲間なので頭が良いと言われています。冬場の食料にドングリを隠すのですがおよそ1000個の場所を覚えているそうです。ただし春になればその能力もなくなるとか。あと他の野鳥、特に猛禽類の声真似をします。秋に森を歩いていると“ピョー”とオオタカラしき声がしてしばらくその声を探るとやがて“ジェー”という声とカケスの姿。この森で何度だまされたことか(笑)。その声に由来してカケス英名は「jay」なんだって。

最後の写真はそのカケスの羽です。数年ぶりに福島で拾いました。ガイドでその美しさを一人でも多くの人に見てほしいと思っています。

【レンジャー：木田秀幸】

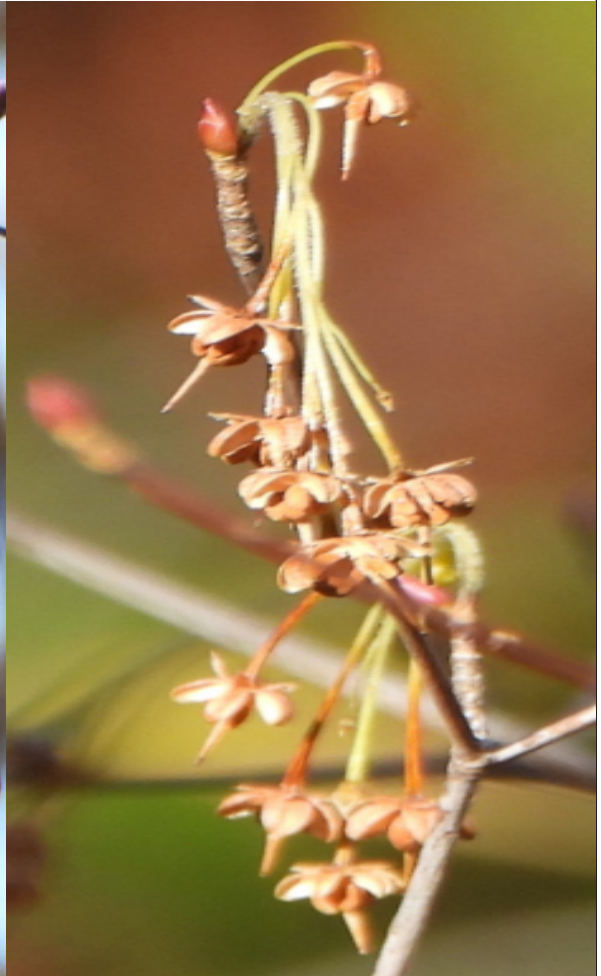
森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*~*)

冬枯れの樹木を見ていると枝先に何かが付いているのが見えます。ドライフラワーのようにも見えますが、…。左の写真はイタヤカエデの実でした。実はまさに翼果！イロハモミジに比べると2倍以上の大きさです。4月初旬に円錐状の房のような花序（花の付く柄）を出し、賑やかな黄色の小花を咲かせます。雄花は花を終えると花序ごと樹下に落とすので、地面一面が黄色の花束で包まれます。茶色のこの翼果は受粉を成功させしっかりと熟し、やがて風に乗って運ばれ芽生えを待ちます。…(^_^)



右の写真はアブラツツジの実です。長く垂れ下がった花序の柄が幾本にも分かれ房状に見えます。開いたガクは花卉のようでちょうど花束を下に向けているようなまとまりをみせます。つんと尖った柱頭が目立ちます。花序の柄にまだ緑色が残りますが全体として彫刻のような美しさを感じます。実が乾燥すると裂けて種子が出ていきます。下を向いていたのは裂け目から種子を落下させるためなのですね。芽生えを待つ種子が地面のどこかでその時まで眠っています。…(^_^)【レンジャー：菅原幸彦】

2月のイベント & お知らせ

イベント

◆「かわいい雪だるまのリースを作ろう」

【日時】2月17日(土) 10:00~11:30

【対象】小学生以上 10名

【内容】自然素材で作った雪だるまや木の実などを接着してリースを作ります

【場所】自然観察センター研修室

【申込み】2月6日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆『森のアート感さつ会「こけウォッチング」』

【日時】2月24日(土) 10:00~12:00

【対象】小学3年生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)

【内容】アートな視点でこけに注目し、自然の美しさやおもしろさを楽しみます

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴

【申込み】2月7日(水)午前9時より電話受付(先着)

◆「野鳥のレストラン」OPEN!

【日時】12月1日(金)~3月31日(日) 9:00~16:30の開館時間中

【内容】野鳥のために冬季限定で餌台を設置しています
餌を食べる様子を窓からそっと見ることができます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 4日, 11日, 18日, 25日

時間: 10:00~11:30

※12月~3月の冬季は午前のみ開催

休館日



5日, 13日, 19日, 26日

毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

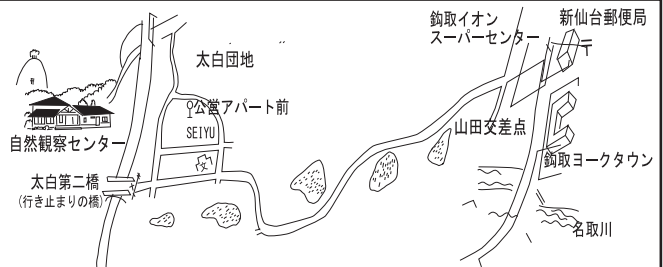
【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター